

PSD 協会

令和 7 年 1 2 月 1 0 日 zoom 会議事録

書記 松江光弘

日時 2025 年 12 月 10 日（水） 19 時～20 時 30 分

会場 ZOOM 開催

出席者 川島 哲会長、中野 進也副会長、齊藤 篤史専務理事、佐藤 洋久常務理事
石本 忍理事、清水 一弘理事、南木 康広氏、松江 光弘理事

座長 中野進也副会長

30 周年記念学術大会の総括と反省

- 会長挨拶と現状報告

会長より 30 周年記念学術大会の総括として、決算は赤字だが大幅ではなく、参加人数は予想より少なかったとの報告。地震の話題や地域(熊本)の選挙状況にも触れつつ、今後の課題として集客や SNS 活用の不足を指摘。

また、参加者に送ったお祝い金の報告と感謝の意が述べられた。

- 学術大会のアンケート結果と感想共有

アンケートは全回収し、連携の課題や講演内容の評価、特に伊藤さんのデモが好評だったことが共有された。

参加者からは、講演の時間配分や内容の充実、ワックスアップの実演方法について改善提案があった。

雑誌広告の効果は薄く、SNS での会員全体のシェア促進が必要とされた。

- 集客と参加者数の課題

申し込みは 38 名、実参加 32 名と少なく、30 周年記念にしては寂しい結果。コロナ禍の影響でオンライン中心の開催が増え、対面の重要性が再認識された。

参加者のフットワークの軽さや地域ごとの支部体制の弱さも指摘され、特に九州や近畿、大阪の参加が少なかったことが反省点。

地域の理事が中心となり、会員への声かけや団結力強化が必要とされた。

キャストパーシャルコンテストの報告と評価

- 収支報告（テクノバリューで報告します）
赤字でした。会場費やカメラマン費用、司会者費用などを抑えたが、参加者が少なかつたので、赤字は避けられなかつた。
1日開催にすればトントンだった可能性も示唆。
- 参加状況と内容評価
応募22名で予想より少なかつた。参加者の作品のクオリティは全体的に低下傾向にあり、特に適合の悪さが問題視された。
審査は細かく点数化し、工程ごとに評価する厳密な方法で行われたため労力が大きかつた。
5年に1回程度の開催が妥当との意見。
作品の展示方法や審査方法の改善案も議論された。
- 入賞者発表
会員部門では1位は安田宜巧さん、2位は高橋佳宏さん、3位は松江光弘。
一般部門では1位は白幡太一さん、2位は高岡遼さん、3位は中沢勇太さん。
特別賞は江崎良彦さんが受賞。
入賞作品は4月の月刊誌「歯科技工」に掲載予定で、写真撮影の準備を進める。

今後の課題と展望

- 学術大会の内容と運営改善
伊藤さんのデモの時間配分や実演方法の見直し、集客力強化のため講演者自身が働きかけをすることが提案された。
SNS活用の全会員参加体制の構築、地域支部の活性化が重要視された。
対面とオンラインのバランスを考慮した開催方法の検討。
- 会員のモチベーションと技術向上
コンテスト参加者のモチベーションや臨床でのクオリティ維持の課題が指摘された。
PSD会員の技術レベルの低下を危惧し、患者思いの高品質な技工を継続していく必要性が強調された。
若手技工師の育成やバックアップ体制の強化も話題に。

- 組織体制と地域連携
地域ごとの理事や中心人物による声かけ、定期的な集まりの実施で団結力を高める方針。
九州や近畿、関東の支部体制の強化が急務。
PSD ブランドの活用促進と会員の意識改革も必要。
- 保険制度と業界の変化への対応
保険制度の厳しい状況やデジタル化の影響、今後の業界動向についての懸念が共有された。
変化に対応しつつ、患者思いの技工を守るものが PSD の使命とされた。

来年のスケジュールと抱負

- 幹部育成コース
2026 年 7 月 18・19 日に開催予定。受付開始済み。（参加定員 7 名）
- 次回理事会
2026 年 1 月 15 日（木）19 時より Zoom で新年会兼理事会開催予定。
議題や内容は川島会長と中野さんで調整し、URL 送付予定。
- 各メンバーの抱負
多くの参加者が技術向上、組織活性化、体調管理、若手育成、地域連携強化を目標に掲げた。
忙しい現状の中でも PSD 活動への参加意欲を示す声が多かった。

まとめ

- 30 周年記念学術大会は赤字ながら大幅ではなく、参加者数は少なめで集客と SNS 活用が課題。
- アンケートでは講演内容や連携に対する評価と改善要望があり、伊藤さんのデモが好評。
- キャストパーシャルコンテストは参加者少なく収支は赤字、作品のクオリティ低下と適合不良問題が指摘された。

- 入賞者は安田さんら7名で、作品は4月の月刊誌に掲載予定。
- 今後は講演方法の改善、会員全体のSNSシェア促進、地域支部の活性化が重要。
- PSD会員の技術向上と患者思いの精神維持が強調され、保険制度や業界変化への対応も議論。
- 来年の幹部育成コースは7月開催、次回理事会は1月15日にZoomで実施予定。
- 各参加者からは技術向上、組織強化、若手育成、体調管理などの抱負が共有された。